

弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会報告書(案)に対する提案書

1. ゾーンごとの整備イメージについて

- (ア) 休憩広場:「眺望を活かした広場とし」の文言は削除して欲しい。討議の過程でも、将来的に眺望は失われる可能性が高いという議論になりました。「眺望を活かす」ために下から生えてきた木を伐採するなどは本末転倒と考えるからです。
- (イ) 開拓広場:「どんぐりの森から苗木の移植を行います」の文言は削除して欲しい。ボランティア活動の方向性を決めてしまいかねない文言です。苗木を移植すれば移植した後の管理がまた必要になり、その手間は大きなものです。この点については十分議論が煮詰まっていますので、イメージの提起にとどめておいてはいかがでしょう。「子供たちが自由に活動できる」とか「来訪者と共に行う森づくり」など、もう少しイメージを膨らませた文言があれば今の段階では十分かと。開拓広場は、いろいろな事業計画が今後考えられると思います。
- (ウ) 森の育みエリア:「苗木の移植等を行い」の文言は削除して欲しい。懇談会でも阿部委員から意見が出されていました。移植作業による踏みつけのダメージは大きく、またその後の管理が必要となり、森を育むことにはならない、と考えます。

2. IIとIIIの間に、「残された検討課題」を新たな章立てにして付け加えて欲しい。懇談会では、跡地の利活用に関して、跡地のハード面の整備方策にとどまらず、地元のみなさんの希望やソフト面での留意点、だんぶり池の轍を踏まず持続可能なシステムづくりをどうすればいいか、などソフト面で実に多くのことが話されました。懇談会は「隣接地の利活用方策の検討」を目的にしているのですから、最終答申にあたり、ソフト面に関わって出された意見や十分議論がなされず課題とした事柄など、重要で特に留意して欲しい事柄を項目的にあげておきたいのです。そうすれば今後、市が進める今後の整備方針の中で活かしていけると思います。

- (ア) 整備の具体化にあたっての検討・協議システムのあり方
- (イ) 持続可能な管理運営のあり方。
- (ウ) 跡地の持つ教育機能をどのように来訪者に伝えていくか。ガイド養成・配置、企画のあり方。
- (エ) 隣接地の利活用を地域興しにどう結びつけていくか。(地元農産物の販売など)
- (オ) 弥生いこいの広場との連携の工夫。
- (カ) 整備過程で出てくる間伐材等の活用の工夫。
- (キ) 残されている集水塔に対する安全対策(別記)
- (ク) その他

3. (キ)で「集水塔に対する安全対策」を掲げましたが、添付した図面を見れば分かるように、No.1からNo.5の集水塔は、「森の育みエリア」に存在すると考えられます。ここに人が入ることを想定し、集水塔への安全管理は、特別にきちんと行うべきだと思います。現在、金網で上部は覆われていますが、金網は腐蝕していきます。金網以外の万全の安全対策が必要ではないでしょうか。そしてこの問題に着手するのであれば、他の集水塔にも同様の措置をしておくのが肝要かと思われま